



RI会長 ゲイリーC.K.ホアン  
第 2640 地区ガバナー 辻 秀和



# 2014-2015年 海南東ロータリークラブ

## ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

RI District 2640 Japan

### 第 1818 回例会

平成 27 年 2 月 9 日(月)

12:30~ 海南商工会議所 4 F

#### ゲスト卓話

「和歌山県下の最新の経済情勢について」

財務省 橋本 博紀 様

#### 1. 開会点鐘

#### 2. ロータリーソング 「我等の生業」

#### 3. 出席報告

会員総数 48 名 出席者数 30 名  
出席率 62.5 % 前回修正出席率 64.58 %

#### 4. 会長スピーチ

会長 山東 剛一 君



みなさん、こんにちは！本日はゲストに財務省近畿財務局和歌山財務事務所事務所長の杉林雅史様をお迎えしています。のちほど卓話をしていただくことになります。ご清聴下さい。先週、土曜日に社会奉仕委員長の田中君が社会奉仕委員長会議に出席されました。ご苦労さまです。

2月は世界理解月間になっています。ガバナー月信には次のように書かれています。2640 地区の各クラブの方々が世界に向けて活動され有意義なロータリー活動を展開されると同時に識字率の向上、水問題や環境保全等で日本では考えられないような問題を有する地域が有ることを理解して頂き、正しい国際理解に立脚してよりよい国際活動を推進されることを願っています。

今週 11 日(水)と 12 日(木)に総勢 11 名で宮崎中央 R C の例会に出席させて頂きます。ありがとうございます。

#### 5. 幹事報告

幹事 中西 秀文 君

○例会臨時変更のお知らせ

和歌山西 R C 2月 25 日(水) → 2月 26 日(木)

18:00~割烹「華新」

和歌山中 R C 2月 27 日(金) → 2月 27 日(金)

19:00~ ルミエール華月殿

#### 6. ゲスト卓話

「和歌山県下の最新の経済情勢について」

財務省 橋本 博紀 様

近畿財務局和歌山財務事務所長の杉林でございます。さて、本日はこのような会にお招きいただきましてありがとうございます。少しお時間を頂戴いたしまして、平成 27 年 1 月期の「和歌山県の経済情勢報告」についてご説明をさせていた



だきます。それでは、県内の経済情勢について調査しました結果につきまして、主要な項目を中心にご説明いたします。まず、個人消費ですが、大型小売店販売額は、駆け込み需要の反動減となった 26 年 4 月以降 8 か月連続で前年同月比マイナスとなっています。マイナス幅は、前年比の概ねマイナス 4% 台となっています。10 月に大きく落ち込んでいますが、ヒアリングによると上旬、中旬に連続して上陸した台風(10/4 ~ 6 : 台風 18 号、10/12~14 : 19 号)の影響があったとのことですですが、総じてみると、大型小売店での消費の状況は依然として、なかなか改善してこないという状況かと考えています。ヒアリングにおいては「消費マインドの低迷は続いている。」といった声が聞かれました。しかしながら、年末年始の状況などについては「前年同期比でややマイナス。ただし、前年は駆け込み需要が始まっていたことを考えるとそこそこの数字。ボーナスの増額もあり婦人服は好調で、年末商戦は良かった。」、「円安に向けた動きがある中、仕入れ価格は上昇しているが、売上げは前年比微増。新規出店もあり、年末年始も好調」、「年末年始は来店客数、売上げともに堅調。年明けからのバーゲンセールも商品単価が下がった分、購入点数が増えている」といった声も聞かれました。このように、各企業からの声はこれまでよりはやや明るい兆しが出てきたかを感じています。この傾向が、今後、県内に広がって行けばと期待しています。

次に、乗用車の新車登録届出台数をみますと、8 月以降 4 か月連続で前年を下回っています。特に 11 月は大きく減少していますが、25 年秋から駆け込み需要が始まっていたので、消費税率引き上げ以降の厳しい状況に加え、駆け込みの反動も相まってマイナス幅

四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ①真実かどうか
- ③好意と友情を深められるか
- ②みんなに公平か
- ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長：山東 剛一 幹事：中西 秀文 S A A : 山田 裕之

が大きくなつたと考えています。ヒアリングにおいては、「10-12月期の受注は前年比約5%減。消費者のマインドは依然低いほか、他社との競合も影響している。」といった声がある一方で、「消費税率引き上げ前の駆け込み需要があつたため前年同月は下回っているが、新車販売などにより徐々に回復してきている」といった声が聞かれました。なかなか厳しい状況には変わりはないようですが、やや改善といった声も聞かれていますので、今後に期待したいところです。

また、県内の主な観光地(白浜温泉、那智勝浦温泉)の動向をみると、10月は台風など天候不順、11月は3連休が25年比で1回少なかつたこともあり、前年同月比は減少していますが、JRが中心となった和歌山DCキャンペーンが下支えしたこともあり、大きな減少にはならなかつたようです。ヒアリングにおいては、「天候不順の影響はあったが、少しずつ客は戻ってきてる。また、最近は高野山や熊野古道を訪れた欧米系の外国人観光客が紀南地域にも増えてきていると感じる」、「インバウンドがアジア中心に増加している。特に台湾は1月~9月で前年比103%増加している」との声が聞かれました。

このように、大型小売店販売額は依然として前年を下回って推移していますが、品目別では身の回り品など減少幅が縮小しているものもあるほか、年末年始の状況も堅調に推移しているといった声が聞かれるなど、厳しい中にも明るい兆しが見えてきたかと考えています。また、乗用車の新車登録届出台数は、4月以降の反動減の影響が残るなど厳しい状況にあるものの、徐々に回復しているといった声もあるほか、観光については、10月の台風や天候不順の影響などから、宿泊客数は前年同期比減となっていますが、インバウンドの増加など明るい兆しが見えていると考えています。これらを踏まえ、個人消費については、「弱い動きが続いているもの、下げ止まりつつある」と前回判断を据え置きました。

次に、企業の生産活動ですが、前回10月期の情勢報告では、機械工業で海外需要が堅調な一方で、一部製品の在庫調整などから化学工業や鉄鋼業が前年比減少となり、鉱工業生産指数が減少しました。今回は、機械工業で引き続き海外需要が堅調なことに加え、新製品の生産が好調となっていることなどから、依然として高い水準で推移しているほか、化学工業も在庫調整などがあった7月を除き、国内外共に堅調な動きとなっています。また、鉄鋼については、夏以降やや低い水準となっていますが、指数自体は安定して推移していると思っています。このように9-11月における

2月は世界理解月間です  
(World Understanding Month)



県内の主要3業種の鉱工業生産指数をみると機械工業、化学工業で指数100(鉱工業生産指数は平成22年を100としています)を超えて推移しているものの、鉄鋼では100を下回っています。ヒアリングでは、まず、機械工業では「昨年発表した新機種の生産を始めており、このところ生産を増やしている。」、「振興地域での設備投資が引き続き旺盛」といった声が聞かれました。次に化学工業では「生活用品向けで夏までは天候不順の影響で需要が落ち込んでいたが、それ以降国内需要が戻ってきてる」、「受注は例年並みでフル稼働の状況」といった声が聞かれました。最後に鉄鋼業では「国内需要はオリンピックや震災復興需要があり変わらず堅調。ただし、建設現場で人手不足などによる工期の遅れがあり、出荷には影響が出ている」といった声が聞かれました。このように、企業の生産活動を見ると指数ではやや弱い業種がありますが、各企業ともに堅調といった声が聞かれています。これらを踏まえ、生産活動については、前回判断の「持ち直しのテンポが緩やかになっている」から「持ち直している」と前回判断を上方修正しました。

次に、雇用情勢ですが、有効求人倍率は21年6か月ぶりに1.00倍を超えた4月以降、1.00倍以上を維持してきましたが、9月以降3か月連続で低下し、倍率も1.00倍を下回っています。11月の有効求人倍率は、前回調査時の最終月(8月)の1.05倍からは▲0.1ポイント減少し0.95倍となっています。有効求職者数、有効求人数をみると、有効求職者数は増加傾向にあるのに対し、有効求人数が減少傾向にあり、やや企業の採用活動に様子見感があるのかと考えています。

他方、12月に公表しました景気予測調査の「従業員判断BSI」ですが、企業の人手不足感は解消されていないという結果になっています。ヒアリングにおいては「企業は人手不足感があるが、このところ景気回復の先行きが不透明であることから、人員の補充を控え、今後の景気回復状況を様子見しているようである」、「専門職の募集は厳しく、特に介護職は常に人手不足。事務職は人気だが、専門知識が必要な場合もあるため、求人側と求職側でのミスマッチがある」との声が聞かれました。これらを踏まえ、雇用情勢については、前回判断「緩やかに持ち直している」から「持ち直しつつある」として、下方修正しました。

次に設備投資ですが、全産業の26年度通期は前年を下回る計画となっています。この要因については、前年度大型投資を行った企業の投資終了による反動減といった個別企業の要因によるものが大きくなっています。よって、和歌山県全体の設備投資が減少傾向に転じたとは考えておりません。

ヒアリングにおいては、「新工場の建設等行っており、前年度と比較して大幅に設備投資額は増えている」、「新店舗を毎年2~3店舗

和歌山財務事務所



出店している」といった声が聞かれました。なお、このところの円安方向への動きから「原材料価格が高止まりし、収益が悪化傾向にあるので、設備投資額を下方修正した」という声も聞かれました。

次に、企業収益ですが、26年度は減益見込みとなっています。経常利益については、平成24年末からのアベノミクス効果などにより、企業の収益環境が改善したことにより、平成25年度は増益に転じました。26年度は、それらが一巡してきたこと、他方、このところの円安方向への動きにより輸入原材料の価格の高騰が顕在化してきていることが減益要因の一部ではないかと考えています。企業からは、「円安方向への動きから原油価格の下落分を相殺してしまっている。加えて原油由来以外の原材料価格がさらに上昇している状況で、収益を圧迫している」、「消費税率引上げなどによる消費マインドの低迷は継続している。このところ、競合も激化しており、収益に影響を与えている」といった声が聞かれました。残る4項目はその他項目ということで簡潔に申し上げますが、住宅建設は相続税対策から堅調な動きを示していると言われている貸家を除き、分譲、持家ともに前年から減少傾向にあります。公共事業は、県下においては高速道路工事などの大型公共事業が続いている、引き続き前年を上回っています。企業倒産は件数では前年を上回っているものの、負債総額では前年を下回っています。最後に景況感については▲10.5%ポイントと前回調査時からは引き続きマイナスとなりました。このように、今回の情勢報告における主要5項目（個人消費・生産活動・雇用情勢・設備投資・企業収益）について、個人消費は弱い動きが続いているものの、下げ止まりつつ（据え置き）あるほか、生産活動は持ち直し（上方修正）しており、雇用情勢は持ち直しつつ（下方修正）あります。このほか、設備投資は前年を下回り（据え置き）、企業収益は減益見込み（据え置き）となっています。以上から、前回比較では、生産活動が上方修正、雇用情勢が下方修正となり、他の3項目は据え置きとなりました。このほか、その他項目は総じてみると下方修正としています。これらから、総括判断は前回判断（10月）を据え置きました「一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある」先行きについては、各種政策効果を背景に県内経済が回復に向かうとの期待感がありますが、原材料価格高騰や海外景気の下振れなどによって県内の景気動向が下押しされるリスクがあるなど、これらの動向を注視していく必要があると考えております。ご清聴ありがとうございます。

## 7. 閉会点鐘



## ニコニコ・BOX

山東 剛一 君 近畿財務局和歌山事務所長の杉林様、卓話宜しくお願ひします。  
小椋 孝一 君 最近、紀美野町で、車荒らしの  
盜難がおきています。

山田 裕之 君 昨日、子供のころからやっているボイスカウトのイベントに参加しました。

田岡 郁敏 君

## 次回例会

第1819回例会 平成27年2月16日(月)

12:30~ 海南商工会議所 4 階

ゲスト卓話

## 「和歌山国体について」

海南市役所 国体推進室長 尾崎 正幸 様



## イスラエルとパレスチナの学生が 平和を築く

「イスラエルとパレスチナの学生が、互いの肖像画を描きながら、平和について考える」これは、12年前にシカ



ゴで始まった Hands of Peace プログラムにおける取り組みの一つです。毎年、両地域の学生とさまざまな宗教的背景をもつ学生が集まって、平和を築くための対話とチームビルディングに取り組みます。

参加者である10代の若者たちは、専門家による進行のもと、中東情勢の情報を得ながら、文化と宗教の多様性を学びます。プログラムの目標は、学んだことを生かして、日常生活や地域社会で平和構築に取り組んでもらうことです。

一緒に腰を下ろして絵を描きあうことで、「多くの共通点を発見し、同じ人間だということが分かってくる」と、プログラム実行者の一人、ケリー・メロスさん（米国カリフォルニア州、Encinitas Coastal ロータリークラブ会員）は話します。メロスさんは、2年前からプログラムに関与するようになり、その後、アートの力に注目したワークショップを開始しました。絵を描く際には、大まかなイメージと輪郭に注意するよう学生にアドバイスするというメロスさん。こうすることで、全体の美しさを感じ取り、モチーフとなる相手の細部にこだわることなく、やがてはイスラエルとパレスチナという枠組みを越えて、一人の人間として相手を理解できるようになると話します。

プログラム期間中、参加者はロータリー会員を含むホストファミリーの家に滞在。会員は、地域フォーラムやセミナーでボランティアを担い、その他の平和推進イベントにも積極的に参加するほか、資金サポートも行っています。

対立を超えて ジム・タツダさん（米国イリノイ州、Glenview Sunrise RC）とゲイル・タツダさんのご

夫妻は、プログラムを通じて学生4人のホストファミリーとなりました。ユダヤ系のゲイルさんは、パレスチナ出身のイスラム教徒であるモハメド君を世話したときのことを振り返ります。家では当時、モハメド君との会話を求める彼の母親から、毎朝のように電話がかかってきました。しかし、ゲイルさんが風邪をこじらせたとき、今度はゲイルさんに電話がかかってくるようになりました。この前言ったとおり、ハチミツとレモンのジュースは飲んだ?毎日3回、ちゃんと飲んでる?こんなときゲイルさんは、ユダヤ系の自分にも、パレスチナのイスラム教徒の友ができたのだと、しみじみと感じたそうです。モハメド君は、その後イタリアに留学し、さらに奨学金でシカゴ郊外のカレッジに進学。卒業時には、彼の両親がパレスチナからタツダ家を訪問するそうです。

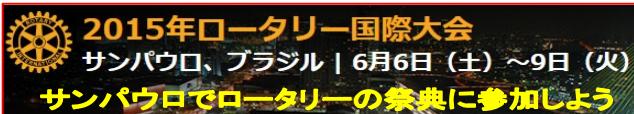
このプログラムは人生を変える取り組みだとゲイルさん。ある日のこと、ゲイルさんは、参加者同士の次のような会話を聞きました。もし検問所で私を見つけたら、あなたは私に銃口を向けるの?そんなことはできない。あたたかく迎えてあげるよ。

### プログラム進行中に、ガザ侵攻の知らせが

「経験したことがないような会話の数々に驚くばかりです。普通なら、とげとげしい激論になるのに」イスラエルからのプログラム参加者、ハガー君はそう話します。「参加することでパレスチナ人への見方が変わるかも、とは思っていました。でも、これほど強い絆で結ばれることになるとは思いませんでした。パレスチナからの参加者は、今や私の人生の一部。いつも話をしています」

イスラエルでは、プログラムの元参加者が集まって、学んだことを土台に支援ネットワークを築くためのセミナーやワークショップを開催しています。ハガー君は現在、イスラエル人とパレスチナ人による青少年サッカー大会を開催するため、友人と協力して市議やサッカークラブとの話し合いを進めながら、イベントの資金集めに奔走しています。

「みんな同じ人間だということ、そして、共通の関心をもって一緒に楽しめるということを、参加者に体感してもらいたいんです」また、高校生のロクサーヌさんは、米国からの学生としてプログラムに参加しました。しかし、プログラム開催のさなかに、イスラエル陸上部隊によるガザ侵攻の知らせが届きました。参加者同士の争いや仲間割れが起きるのではないか。もう対話は不可能なのではないか。彼女はそう思ったそうです。そのとき、イスラエル人の女子学生が立ち上がり、何も言わずにしばしの間、頭を下げました。すると全員が立ち上がり、あとは皆で、ただただ涙を流すばかりでした。互いに抱きあい、みんなが一つになれたのはあの日だったと、ロクサーヌさんは振り返ります。「対立グループの者同士の友情が芽生え、すべてを超越できた、信じられないような瞬間でした」



## 奉仕と医療に貢献する精神科医が

### 学友賞を受賞

この度、2014-15年度「学友人道奉仕世界賞」が、ジョンズ・ Hopkins 大学医学部准教授を務める精神科医、ジータ・ジャヤラムさん(Dr. Geetha Jayaram)に授与されることになりました。表彰式は、2015年6月8日、サンパウロで開れるロータリー国際大会の本会議で行われます。



ジャヤラムさんは、重度のうつ病、双極性障害、パニック発作といった精神疾患に苦しむ人々を救うた

め、母国インドと米国での精神医療の普及に貢献してきました。少なくとも3億5,000万人が鬱を経験し、障害に陥る人も多い今日の世界において、精神医療へのアクセスを広げる取り組みは非常に重要となります。1996年にコロンビア・ロータリークラブ(米国メリーランド州)に入会した彼女は、翌年、母国インドへの恩返しをするため、Maanasi(「健やかな」の意)という名の女性向け精神医療クリニックを開設。その後も、医薬品の提供、医療スタッフや社会福祉士の研修、資金調達を通じてクリニックの発展を後押ししたほか、2004-05年度には「大学教員のためのロータリー補助金」を受け、セントジョンズ医療大学(インド)と上記クリニックで精神医学を教えました。また、農村に医療スタッフと社会福祉士を派遣するための車両と小型バイクを購入する際は、ジャヤラムさんの夫であるクマールさんも支援に加わりました。

セントジョンズ医療大学と提携している同クリニックは、コロンビア・ロータリークラブからの資金援助やロータリー補助金のほか、地元クラブから管理運営サポートを受けることで、安定した業務を行っています。また、プライマリーケア(初期治療)の提供を通じて、包括的医療ケアへの窓口となっています。

ほかの国でも同様のクリニックを開き、精神疾患に苦しむ人たちをサポートできるとジャヤラムさん。クリニックに関する学習ビデオ制作にも関与しており、このビデオは世界保健機関(WHO)のウェブサイトや、Medibiz TV(130カ国を網羅する医療系テレビチャンネル)でも公開されています。

ジャヤラムさんとロータリーの関係は、ローター アクトクラブに入会した19歳のときに遡ります。慈善家でロータリー会員である父と、ボランティアに積極的な母から影響を受けたという彼女は、「与えることから多くを学べる」という信念を胸に、ポリオ撲滅を目的としたインドでの全国一斉予防接種(NID)にも参加しました。

ジャヤラムご夫妻は、去る11月、ハワードウェスト・ロータリークラブ(米国メリーランド州)の創立会員となりました。